報告

日本技術士会北海道本部

第60回　年次大会・講演会

小澤達也

1. はじめに

公益社団法人日本技術士会北海道本部の第60回年次大会が2025年7月15日（火）札幌パークホテルで開催されました。会議の概要と講演会、懇親会について報告いたします。

2. 年次大会（15：30 ～ 16：30）

写真-1　会場の様子

写真-2　金本部長

年次大会では、定期報告として4つの報告がありました。

《出席者73名》

（1）開会挨拶

金本部長より、就任後2年間の多大なるご指導ご鞭撻、定款変更の成立へのご協力に感謝を述べられるとともに、昨年の全国大会に携わった実行委員会及び分科会担当の皆様、協賛をいただいた各社の皆様に、あらためて感謝を述べられました。

続いて、統括本部の活動状況として、IPD、CPD、DEIの3点についてお話されました。

① IPDは、技術士を目指す若手技術者に対し、日本技術士会として組織的に教育支援を行うプロセスが必要と考え、統括本部で制度設計の段階からスモールスタートしている状況である。

② CPD登録は、北海道は全国と比べ登録率は高い方だが、それでも進んでいない状況である。技術士の資質向上は、技術士法第47条の2に定められた、技術士の責務である。日本技術士会では、会員・非会員問わずCPD登録が可能なシステムを構築している。技術士に合格したことに驕らず、常に研鑽に取り組み自分を磨き、それを客観的に証明できる記録として残すことを、より一層進めていただきたい。

③ DEIについては、今年、男女共同参画推進委員会をDEI委員会に名称変更した。多様・多彩な技術者、技術をつなぐプラットフォームとして、誰もが公平に活躍できる社会の実現に貢献できるよう活動していくことを目的に、再出発したところである。今後の活動に注目していただきたい。

最後に、IPD、CPD、DEIのキーワードを念頭に置きながら、北海道本部での活動をさらに活発に進めていただくとともに、ご支援と協力をお願いしたいと結ばれました。

（2）報告事項と質疑応答

①第1号報告（2024年度事業報告及び決算報告）

長井事務局長より、2024年度の事業及び決算報告が行われ、寺島会計幹事より適正かつ問題の無い旨の監査報告がありました。

②第2号報告（2025年度事業計画及び予算）

前号に続いて、2025年度の事業計画と予算についての説明が行われました。

今年度は技術士全国大会が終わり、ほぼ通常期の事業活動となるとした上で、コロナの影響により増加した繰越額と、全国大会の決算余裕から得られた繰越額により、2026年度も安定的な財務体質での運営が可能と予想されることから、マイナス収支の予算計画を許容したことが報告されました。ただし、2026年度の予算策定までに、北海道本部の資産状況を把握した上で、健全かつ持続可能な収支での活動予算の運営に移行できるよう、各委員会・研究委員会と予算調整を十分に行うとの説明がありま

した。（詳しい予算内訳等は、本会誌後ろに掲載の大会資料を参照願います。）

③第3号報告（役員の選任について）

2025年度の北海道本部役員交代について報告と紹介がありました。なお、今年4月に日本技術士会の地域組織幹事選出選挙が行われ、北海道本部の立候補者は皆さん信任されています。

④第4号報告（日本技術士会会長表彰者）

2025年度日本技術士会会長表彰の受賞者について事務局より報告がありました。北海道本部から、青木信成氏、荒木雅紀氏、飯野良枝氏が受賞されました。会長表彰受賞者の略歴等は本会誌グラビアをご覧ください。

3. 講演会（16：30～17：30）

今回は、室蘭工業大学大学院工学研究科 しくみ解明系領域 寄附講座「未利用資源エネルギー工学講座」特任教授・名誉教授の板倉賢一氏をお迎えし、「未利用石炭等によるブルー水素製造と地域利用～三笠モデル～」と題してご講演いただきました。

（1）講師のご経歴

写真-3　板倉 賢一 氏

板倉様は、2002年から室蘭工業大学情報工学科教授、2019年からは特任教授として、石炭地下ガス化（UCG: Underground Coal Gasification）の技術などの開発・普及に取り組まれております。2021年度には、「カーボンニュートラルな水素製造による産炭地域創生モデルの構築」について、水素活用の実現への道を拓いた功績により、北海道科学技術賞を受賞されております。

（2）講演について

ご講演では、これまでの研究歴として、AE（破壊音、破壊振動）計測によるガス突出の予知に関する研究、岩石・岩盤破壊の可視化やモデル化に関する研究のほか、地下空間開発支援システム（デジタルツイン）の構築、画家の作風のコード化に関する研究（感性情報処理）など、幅広い研究テーマについてご紹介されました。

次に、日本の石炭事情と三笠モデルの概要についてお話されました。産炭地域には「未利用石炭を地域のために活用したい」というニーズがあるため石炭を何とかして使いたい、そのための方法の一つとして、UCGを発展させたハイブリッドUCG（木質バイオマスとの混焼）、水素製造技術、炭鉱の地下採掘跡地にCO_2を固定する技術を合わせた「産炭地創生モデル（三笠モデル）」を提案したとのことです。

AE計測を用いた破壊活動の可視化、炭層に空気を送るパイプを引きながら移動させる後退式水平同軸UCG技術、大気、地表、地下、地下水の監視システムの構築、これらを三笠地下ガス化炭鉱UCG実験で検証し、安全かつ高効率なUCGが可能であることを確認できたことが、三笠モデル実現への最も大きな成果であったと述べられました。

今後は、UCGに加えて空知地域の露天掘炭鉱における地表石炭ガス化を活用することにより、水素製造コストを低減し、三笠モデルを世界に展開していきたいと展望を語られました。

4. 懇親会（17：45～19：30）

講演会終了後、会場を隣の部屋に移して懇親会が開催されました。《出席者：会員他49名》

谷村副本部長の開会挨拶と乾杯の音頭で開宴となり、懇親会がスタートしました。開宴後は、ご講演いただいた板倉様からのご挨拶、会長表彰受賞者の青木氏、荒木氏、飯野氏からのご挨拶があり、続いて地方技術士委員会からのご挨拶、新任委員長からのご挨拶がありました。宴もたけなわでしたが、最後に羽二生副本部長の乾杯により閉会しました。

5. おわりに

7月の技術者倫理フォーラムに引き続き、今回のご講演を快くお引き受けいただいた板倉様に心からお礼申し上げます。

今年度の活動は既に始まっていますが、今後とも技術士会に対する会員・会友の皆様の積極的なご支援・ご協力を何卒よろしくお願い致します。

小澤達也（おざわ　たつや）
技術士（建設部門）
日本技術士会北海道本部
事務局次長
株式会社ドーコン